

佛教大学広報誌

B-ism

佛教大学

NO.28

B-ism

NO.28

発行日

2024年(令和6年)12月18日

発行者

伊藤 真宏

編集者

広報委員会

編集・発行

佛教大学広報課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL 075-491-2141(代表)

www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 佛教大学 紫野キャンパス

満たした知的好奇心を、新たなステージへ ——O.L.C.が紡ぐ出会いと生きがい

オープンラーニングセンター長・
教育学部教育学科 教授

篠原 正典

受講生

池内 久勝さん

受講生

田井 潤藏さん

田井 潤藏(たい じゅんざう)
1956年大阪市生まれ。68歳。定額会員。
受講方法は対面とオンラインを併用。

篠原 正典(しのはら まさのり)
1954年鹿児島県生まれ。鹿児島大学工学部卒業
後、電電公社(現・NTT)武蔵野電気通信研究所、
NTT LSI研究所主幹研究員、独立行政法人メディア
教育開発センター教授、同研究開発部長を経て、
2009年に佛教大学へ。教育学部教育学科教授。
2019年からオープンラーニングセンター長。
工学博士。専門分野は教育工学、教育方法学。

池内 久勝(いけうち ひさかつ)
1948年京都市生まれ。76歳。定額会員。
受講方法は対面とオンラインを併用。

佛教大学オープンラーニングセンター(O.L.C.)は、37年間にわたって公開講座を提供した佛教大学四条センターを前身とした、佛教大学の生涯学習機関だ。「本学の教育・研究成果を広く社会に開放し、地域社会との結びつきを深め、誰でも学べることを目的」に設立された四条センターの意志を継承し、より多くの人に学びを提供すべく2021年に対面とオンラインを併用して講座提供を開始した。現在の受講者数は年間8万人超(2024年3月時点)。50〜70歳代を中心に、幅広い世代が学んでいる。

今回は、O.L.C.センター長を務める篠原正典教授と、学びを謳歌する二人の受講生を迎え、O.L.C.の魅力から生涯学習の意義、そして今後の目標までを語り尽くしてもらった。

有り余る時間を どう活用するか

篠原 まずはお二人がO.L.C.に入会されたきっかけからお伺いしたいと思います。

池内 私は前身の四条センターの受講生なんです。ただ、同センターが閉所された後は、しばらく勉強からは離れて、勤めに出ていました。しかしその仕事も75歳で引退ということになって、「何か前向きに取り組めることはないか」と思案しているときに、O.L.C.ができるって知って迷わず申し込みました。

篠原 四条センターではどんなことを学習されていたんですか？

池内 主に歴史です。民俗学の八木透先生の大ファンで、歴史講座を中心に受講していました。四条センター時代は、八木先生の講座ともなるといつも満席

で、申し込むのも一苦労だったのですが、O.L.C.の受講形態は対面とオンラインを併用しているので、比較的教室もゆったりしていますよね。あと、音響設備も整っているので、作曲家でギタリストの綿貫正顕先生の講座も毎週楽しみにしています。

篠原 田井さんのO.L.C.入会のきっかけを教えてください。

田井 私も2023年6月に退職したのがきっかけでした。決まっていたのは、住んでいた千葉県から大学時代を過ごした京都に移住することだけで「リタイア後の有り余る時間をどうしたものか」と考えていました。もう一度勉強したいという気持ちはあったので、大学の生涯学習プログラムを調べていくうちにたどり着いたのが、O.L.C.でした。講座の内容的にもコスト的にも非常に魅力的で、退職から2カ月後にはオン

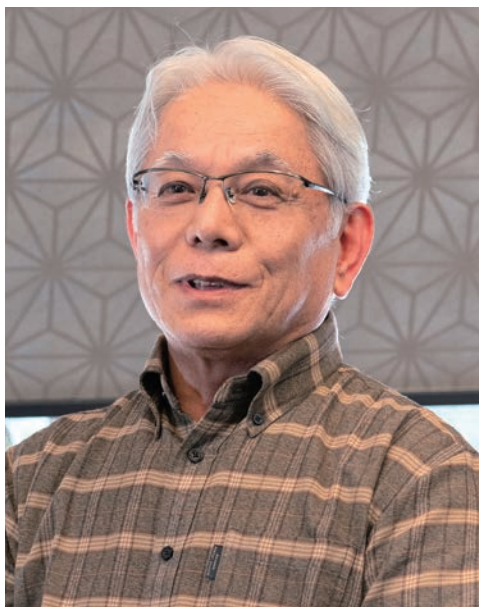
ライン学習をスタートさせました。京都市内に終の棲家を構えてからは対面で学んでいます。

篠原 田井さんも歴史を中心に学ばれてきたんですか？

田井 古典文学や古典芸能・民俗学などに関心をもって取り組んでいます。ただO.L.C.には他にも面白そうな講座がたくさんあって。西洋史だったり、宇宙論であったり、自然科学などにも触手が伸びていました。

多彩な視聴方法と コスパの良さ

篠原 現在O.L.C.では年間約600の講座を提供していますが、受講形態は3つあります。一つはビジター会員で講座1回ごとに受講料をお支払いいただくもの、二つ目は正会員で、会員として継続的に低価格で講座を学んでいただくもの



です。三つ目が定額会員、いわゆるサブスクリプション。半期分の会費をお支払いいただくことで、お好きな講座が受講し放題になります。これはコストパフォーマンスの面でも魅力的ですし、定額ですのでさまざまな分野の講座を受講することで興味の幅を広げ、なおかつそれを継続していただける仕組みになっていると思います。

田井 半期とはいえ3000の講座が1万2000円で受け放題ですからね。無料の講座も結構あります

し、オンライン学習も便利だなと。

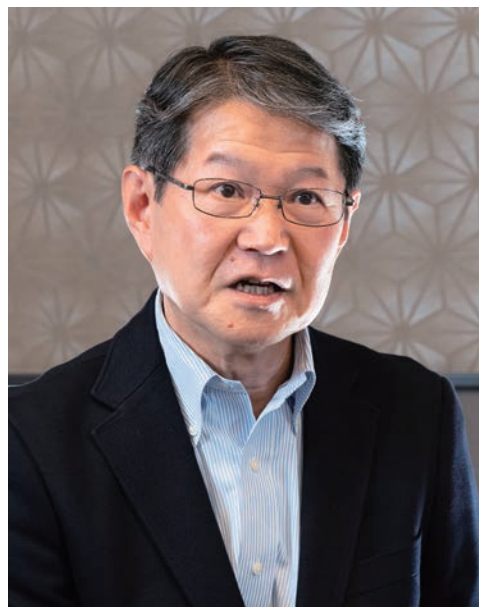
篠原 オンラインはコロナ禍が発端でした。本学は対面での授業が叶わなかった当時からオンラインでの授業に早くから取り組んでいた。O.L.C.ではライブ配信と合わせて、見逃し配信、いわゆるオンデマンドも導入しています。

池内 私は対面のほうが性に合っているのですが、受講したい講義の時間にどうしても合わせられない際にはオンライン、オンデマンドがありがたいです。



会がO.L.C.のおかげで広がっています。先日は佛教大学の宗教ミュージアムの学芸員の方の講座を受けたのですが、とても面白くて。実はミュージアムが自宅の近所にあるので、講座を機にミュージアムの講演会にも参加するようになりました。

田井 魅力はやはり充実したコンテンツです。宗教、歴史、文学、健康・医療、自然科学と幅広い。私もO.L.C.に出合ったことで興味関心の分野がどんどんと広がっていますね。毎回



楽しみにしているのが特別講座。先ほどの八木先生の火祭りのように、折に触れて告知される単発の講座が大好きで。講座で歌舞伎やオペラに触れることができ、興味が湧いて実際に観劇もしました。

池内 特別講座もすごい。世界最高齢のプログラマーとして話題の若宮正子先生や、養老孟司先生、ロボット工学者の石黒浩先生など著名な方が登壇されるので、お得だなと（笑）。

篠原 お二人ともO.L.C.をととても有効活用していた

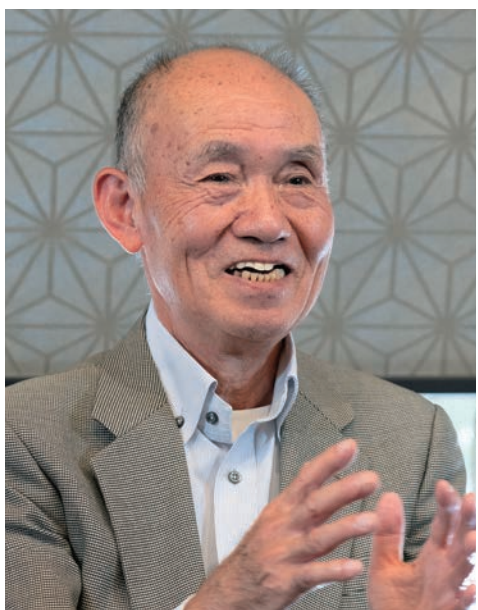
篠原 オンデマンドの利点は、何度でも見返しができることです。技術や技能習得の講座は、なかなか一度聞いただけでは理解が難しい。何度も再生できるオンデマンドなら、その点を補強してくれます。

どんな高まっていく 知的好奇心

篠原 ところで、お二人は以前からの知り合いなんですか？

田井 O.L.C.が仲を取り持ってくれたと言いますか（笑）。マインドフルネスに関する講座に参加した際に、たまたま池内さんと隣り合わせたんです。講師の方から「隣の方とお互いに自己紹介しましょう」と促されまして、お話ししてみると池内さんは出身大学の先輩。しかも学部まで同じというから驚くやら感激するやらで。

池内 それが午前中の講座



だいていますね。

田井 最近では、ビジネススキルに関するコンテンツも増えてきたように感じています。

篠原 O.L.C.では仏教や歴史、文化といった佛教大学が本来持つ強みの部分を拡充してことはもちろん、リスギングに活かせるビジネス向け講座の充実も図っているところです。例えば、大学が資格を出している職に就かれている方が、新たな専門知識を学べる講座です。O.L.C.にはオンデマンド機能があるので、多忙な方でも好きな時間に視聴できます。

で、午後の小倉百人一首の講座でも一緒になって。

田井 お昼ご飯に誘っていただいて、初めて佛教大学の学生食堂に行きました。以来、講座で一緒になれば隣で受講しています。

篠原 素敵なお付き合いと関係ですね。お二人とも精神的に学習されていますが、ご家族の反応はいかがですか？

池内 妻にはしょっちゅう講座の話をしていますね。あまりに私が熱中しているので、呆れていることもあるのですが（笑）。今年9月に東京の増上寺で八木先生の「京の火祭り」に関する講座がオンラインで開かれましたよね。私も拝見したのですが、せっくなので関東の友人にも勧めました。

田井 私と妻には受講内容をいつも話しています。授業で紹介された名所旧跡と一緒に訪ねることもあり、スマートフォン

今後は幅広い年代に向けた学びの場にしていくこと、さらには、海外の方にも受講していただきたいと考えています。世界中の人たちがO.L.C.に集います。ぜひ実現していきたいです。本日はありがとうございました。

▶▶ Information

100本以上のダイジェスト動画が無料で視聴できます！

詳しい情報はQRを読み込んでください。

講座体験はこちら



B-ism

2024
December

今日の授業

「どうアプローチすべきか？」

ゲームとワーク満載のこの日の授業。奥畑先生が繰り出した最後のイベントは、「知的障害児の状態に合わせた支援のためのアプローチ方法を考える」というもの。

ケースAは「自閉スペクトラム症で特別支援学校の小学2年生の男子」、ケースBは「ダウン症の中学1年生の女子」という設定で、それぞれの特性に合わせた支援目標が設定された。男子には「やりたくないときに相手をつねるため、適切な拒否や要求の行動を学ぶ」、女子には「知らない相手とも近距離で接触して話すため、適切な距離感を学ぶ」ことが目標だ。「特別支援学校の先生になったつもりで、どんな道具を使うか、どんな活動をするかを考えてみてください」



学生たちは相談し合いながら、アプローチ方法を考える。先生は教室を回りながら、質問に答え、進捗状況を確認する。学生の一人からは「ケースBの子には、床にテープを貼って適切な距離感を伝える」というアイデアが出た。奥畑先生は「すごく良いと思う!」と評価しつつ、「ゲーム性が加われば、継続して取り組める」とブラッシュアップを促す。ケースAに悩む学生には「つねる以外に、拒否をするための代替行動を見つけてあげて」と伝え、最後に知的障害児を支援する上でのポイントの一つ提示。「不適切な行動を適切な行動に変えるには、その子ができないことではなく、今できる言動の範疇でやらせることが大切。それが真に成長の手助けになります」。学生たちは指導の実践に向けて、大きな指針を得た。

B-ism

2024
December

「さらに「共同関わり合い」の理解を深める場面では、パズルを使ったワークで実験。大人役と子ども役に分かれ、パズルをする子どもに対して大人が表情だけで同意したり褒めたりする場面や「そう、そこは三角だね」や「上手にできたね」といった言葉も添えるシー



が現れた。これこそ非言語コミュニケーションの重要性、豊かさを示すもので、先生は「表情や身振りには多くの情報が含まれていることを感じ取れたのではないか」と補足し、非言語コミュニケーションの意義を強調した。

ンを再現し、関わり方の段階とその効果を検証した。「子どもが何気なく作業をしている横で、大人が言葉を添えるという行為が、その後の発達にもっとも強い影響を及ぼす」という研究があります」。奥畑先生は必

ずゲーム、ワーク後に意図や裏付け情報を伝える。「将来、教員となる学生には、根拠をもって子どもの支援や指導に当たって欲しい。自分たちで指導方針、指導方法を創り出していくために、まずは心理的なメカニズムを知る、実感することが大切です」

奥畑先生は、知的障害児の支援、指導は「スモールステップの積み重ね」と話す。「子どもの小さな『できた』を見逃さず、それを元に次の段階に進んでいくことが肝心です。一歩ずつ、少しずつで構わないのです」。だから先生は、この

奥畑先生は、この授業は必ず将来に活けると実感している。田中希萌さん、立川結悠さん、松村春花さんは、いずれも小学校教諭をめざして奮闘中。実際に教育実習で知的障害の子どもがいたこともあったそう

授業でも「段階」を重視する。共同関わり合いの4段階、指差し、5段階、前言語コミュニケーションの2段階など、現れ得る発達のステップを細かに示す。「段階があるという事実を知っておけば、例えば大きな変化はなくても、諦めることなく、前向きかつ柔軟にサポートができます」

で、「奥畑先生が紹介してくれたカード遊びゲームを実践してみたいと思います」。奥畑先生の授業は、子どもにも大人にも「使える」、極めて実用的な学びの場だった。



子どもと一緒にスモールステップ！
実践に向け学ぶ知的障害児の心理

教育学部 教育学科 准教授

奥畑 志帆

奥畑 志帆（おくはた しほ） 京都府生まれ。博士（心身障害学）。筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。京都大学大学院工学研究科RPD／特定研究員、佛教大学障害学生支援専門職員を経て、2024年から現職。研究分野は、障害科学、認知心理学、生理心理学、生体機能工学。主な著書に『日本版 DN-CAS の解釈と事例』（日本文化科学社、2017年）など。

今や特別支援教育に対する理解やスキルは、小学校教員にとって重要な役割の一つ。知的障害をもつ子どもたちの行動を支援し、発達を助け、自己肯定感を向上させるといった役割が求められている。奥畑志帆先生の「知的障害児の心理A」は、そんな知的障害の子どもの心の内や行動背景を知

る授業だ。……「木曜5限という疲れが溜まり切った時間帯なので、できる限りの工夫をしています」。学生の体調を気遣う奥畑先生の授業は、確かにユニークだ。

受講生は特別支援学校教諭免許の取得を希望する2年生以上。別に開講される授業で学ぶ知的障害児への指導法の根拠、下支えとなる

子ども心理を理解するのが趣旨だ。知的障害の基本概念から始まり、発達の遅れが生じる要因、コミュニケーション方法と支援のあり方に至るまで、次のス

この日のテーマは「知的障害児のコミュニケーション行動」。冒頭、奥畑先生は「言葉に頼らないコミュニケーションにフォーカスしていきます」と、90分の概要を示し、続けて「声のトーンや表情、指差し、身振り手振りといった非言語コミュニケーションの大切さを知ってもらいたい」と、具体的なアジェンダを伝えた。「前回までは、知的障害の子に言葉の遅れがある理由や支援方法を学んできました。今回は、言葉を使わなくともコミュニケー

ションが図れるということを知る時間」というわけだ。すると「いきなりですが、まず皆さんでコミュニケーションをしてみよう」と、学生に紙を配り始めた。ゲーム開始の合図だ。



配布された紙は2枚。1枚には写真が、もう1枚には課題が書かれていて、写真には家族がペットを洗う場面や学生が芝生ではしゃぐ様子など、日常的なシーンが描かれている。さわめく教室に、奥畑先生の穏やかな声が響いた。「二人一組になり、一人が写真の内容を言葉だけで伝え、もう一人はそれを再現しよう」。学生たちは、言葉で伝えられた情報を基に絵を描き、互いにその結果を見て喜び合ったり残念がったりした。続いて別の写真でもトライ。今度は言葉だけでなく、「情緒たっぷり」に身振り手振り、ジェスチャーを加えてもOKとの条件下で行った。すると、再現レベルが向上するペア

ションが図れるということを知る時間」というわけだ。すると「いきなりですが、まず皆さんでコミュニケーションをしてみよう」と、学生に紙を配り始めた。ゲーム開始の合図だ。

配布された紙は2枚。1枚には写真が、もう1枚には課題が書かれていて、写真には家族がペットを洗う場面や学生が芝生ではしゃぐ様子など、日常的なシーンが描かれている。さわめく教室に、奥畑先生の穏やかな声が響いた。「二人一組になり、一人が写真の内容を言葉だけで伝え、もう一人はそれを再現しよう」。学生たちは、言葉で伝えられた情報を基に絵を描き、互いにその結果を見て喜び合ったり残念がったりした。続いて別の写真でもトライ。今度は言葉だけでなく、「情緒たっぷり」に身振り手振り、ジェスチャーを加えてもOKとの条件下で行った。すると、再現レベルが向上するペア

も。2019年8月の初版から現在では既に3刷となったが、気持ちの変化を書き留めたり大事な写真を貼ることができるページも追加するなど、ニーズに応えて

2018年には、厚生労働省が「人生会議」という愛称でACPを大々的に取り上げ、認知度を高める後押しとなった。

「わたしのいきかた手帳」がグッドデザイン賞を受賞

介入の仕方や考え方などを解説した『ACP実践ガイド』を出版した際には研修や講演の依頼も多くなり、その中で手帳の認知機会が増えたことで個人購入のほか自治体から1000部単位で注文が入ること

内容もブラッシュアップを
続けている。

2024年には幅広い世
代への訴求を視野に入れ、
若年層にも注目度の高い
「グッドデザイン賞」に応
募、みごと受賞を果たした。
デザインは暮らしの中で重

売後に携帯しやすいお薬手帳と同じミニサイズも作成するなどサイズ面でも試行錯誤を重ねている。

受賞評価は装丁面だけではない。「リッカート尺度の回答欄は心の揺らぎを見える化している」と、ポイントをきちんとご理解いただいていた評価していただけたのが特に嬉しかったです」。受賞をきっかけに媒体取材も増え、サイトへのアクセス数も伸びているそう。

そ、他人の心のケアもできる。そのためにもこの手帳は自分を見つめ直す時間に繋がるでしょう」

今はクリニックや診療所でのプライマリケアにおいて、本手帳を取り入れた効果についての研究を準備する傍ら、地域住民への使用調査なども考えている。「今後は、診療所ベースのACP普及・啓発を軌道にのせるのが目標。求められるニーズや課題を聞き取りながら、教育介入の方法も検討していきます。この手帳が今まで以上

そ、他人の心のケアもできる。そのためにこの手帳は自分を見つめ直す時間に繋がるでしょう」

今はクリニックや診療所でのプライマリケアにおいて、本手帳を取り入れた効果についての研究を準備する傍ら、地域住民への使用調査なども考えている。「今後は、診療所ベースのACP普及・啓発を軌道にのせるのが目標。求められるニーズや課題を聞き取りながら、教育介入の方法も検討していきます。この手帳が今まで以上にACP普及の一端を担うことができれば光栄です」

はこちら



B-ism

<https://acp-kaigi.jp/>

保健医療技術学部 看護学科 准教授

濱吉美穂

人生最期を迎えようとする時、医療従事者たちに治療や
置に関する要望を自分の口で伝えられる人はどのぐら
いるのだろうか？ 事前に自分の意向や想いを周囲の
たちと話し合っておくことを推奨する“ACP”が世界
注目を集めている。そのツールとして濱吉美穂先生が
本人向けに作成した「わたしのいきかた手帳」が注目
集め、2024年度グッドデザイン賞を受賞、ACPの
及にひと役買うこととなった。

「その頃、祖母が残した遺書を亡くなった数年後になって見つけたんです。そこには『延命治療は如何なることも望みません』と。あの判断でよかったという安堵と同時に、遺書と同じ書面のADは自分で納得して書き記しても肝心の意思決定時に目にしてもらえないければ意味を成さないのでは？と限界も感じました」

当時A/Dでは難しい部分を補完したACPへの取り組みが既に世界で始まっていた。家族や医療従事者たちと繰り返し話し合う、エンディングプランニングのプロセスに重きをおいたと考え方。変化していくこともある患者の望みをより繊細かつ確実に受け取ることができるメリットは大きかった。

国際学会で各国の文化
による違いに気づかされ、
日本人の特性に合わせた
ACPツールが必要だと感
じた濱吉先生が新たに作成

切に行ってもらえるという
考え方だ。

研究のきっかけは認知症になり弱った祖母を介護した時の経験による。医師から提案を受けた胃ろうを、食べるのが好きだった祖母は望まないだろうと悩んだ末に行わなかったのだ。「祖母は辛そうな顔も見せることなく、枯れるように自然なかたちで逝きました。よかったと思う反面、『本当にこれでよかったの

えるのが難しくなった後でも間接的に意向を伝えるこ

「My Wish for LIFE」を作成した。

しかし「延命治療しますか？」など重大な決断へイエスかノーという二択でしか答えられないダイレクトな内容に「すぐに決められない！」と鈍い反応が多数。期待した手応えは得られなかった。

売後に携帯しやすいお薬手帳と同じミニサイズも作成

するなどサイズ面でも試行錯誤を重ねている。

受賞評価は装丁面だけではない。「リッカート尺度」の回答欄は心の揺らぎを見える化していると、ポイントをきちんとご理解いただいて評価していただけたの

が特に嬉しかったです」。受賞をきっかけに媒体取材も増え、サイトへのアクセス数も伸びているそうだ。

手帳を活かし自分を知る
全ての層へ普及を目指す

この手帳を取り入れた。学生には実際に記入、家族に見せながら話したことをレポートしてもらう。



祇園祭ゴミゼロ大作戦



学生ボランティア室交流会



海岸清掃



学生ボランティア室



定例ミーティング



学生スタッフ募集



キャンパスツアー



キャンパスツアー

対照的な個性が、ボラ室に新鮮な風を吹き込んで「以前から興味があり、やってみたかった」「世代を超えている人々と関われる」「社会貢献しながら知見やガクチカ※も得られる」など、2人のボランティア活動に抱いていたイメージも、ボラ室に入ったきっかけも、ほぼ一致している。じつは同じ高校出身だったことが、ボラ室で初めて会話したときに判明。しかし双方の性質は対照的だ。学びたいことが定まらず、「社会学部なら視野を広められそ

企画ごとに班を形成してスタッフ自身もボランティアを行う中で、荒堀さんが特に印象深かったのは、「サ高住（サービス付き高齢者向け住宅）の高齢者10人を招待したキャンパスツアーです。カフェでの昼食や社会福祉学部の先生のミニ講座でキャンパスライフを体験していただき、世代間ギャップの話題でも盛り上がりました」。森林、水辺、神社などでのゴミ拾いや美化活動といった環境保全に主に取り組む大石さんは、「楽しい！という感情が先立ちます。しかも地球に貢献できていると笑う。また、2人が代表に就任した今春は、新歓を兼ねて丹後行きを企画。地元の人たちと一緒にビーチクリーン活動に動いたという。

初夏には、被災地支援を目的とした能登半島地震や台湾東部沖地震の街頭募金活動を四条河原町交差点で実施。「災害時、現地に行きたくても行けないときも、募金活動なら京都でできます」。集まった募金は日本赤十字社京都府支部に全額寄付した。さまざまな活動を通して味わえる達成感や充実感は唯一無二だと口を揃える。



能登半島地震の募金活動

珍しい代表2人体制で学生ボランティア室を運営『ボラ室』の略称でおなじみの「学生ボランティア室」。紫野キャンパス7号館2階、学習情報プラザ内の一室を拠点に、学生スタッフと社会連携センターの教職員が協働して運営している。2024年3月から代表を務めているのが、荒堀七音さんと大石敬太さんだ。これまでは代表・副代表各1人だったが、代表2人体制に。「きっちり分担を決めているわけではなく、あくまでも対等な関係で、企画内容やスケジュールの都合によってお互いにカバーし合っています」と荒堀さん。



歴史学部 歴史文化学科3年生 荒堀 七音さん
社会学部 公共政策学科3年生 大石 敬太さん

主な活動は、施設・団体から寄せられた情報をもとに、学生の相談に応じたり、希望に沿ったボランティアを紹介。月に一度のボランティア相談会をはじめ、募集に関するポスターの掲示やチラシの配架を行い、掲示板やラックからも自由に閲覧できるようにしている。紹介する分野は、地域の清掃やふれあいまつりのサポートなど地域活性化・地域づくり、福祉・高齢者・障がい者施設やこども・教育関連施設での運営協力、募金活動を含めた災害ボランティア、環境・自然保護など多岐にわたる。



B-ism

2024
December

※ガクチカは「学生時代頑張ったこと・力を入れたこと」の略称。



赤沢 真世(あかざわ まさよ)

京都大学大学院教育学研究科を博士後期課程単位取得退学した後、同科の助教(教育実践コラボレーション・センター)に。その後、立命館大学スポーツ健康科学部の准教授、大阪成蹊大学教育学部の准教授職を経て2020年4月から現職。専門は「教育方法学」「小学校外国語教育」。主な論文に「小学校における英語×理科の取り組み 一小学校外国語科の学びの視点から―」(2022年)、「小学校外国語教科書におけるパフォーマンス課題の検討と求められる評価の工夫」(2021年)。著作・共著に「よくわかる授業論」第2版(ミネルヴァ書房、2023年)、「時代を拓いた教師たちⅢ―実践記録で紡ぐ戦前教育実践への扉―」(日本標準、2023年)、「小学校外国語科・外国語活動の授業づくり」(教育出版、2022年)など。

第二十六回
教育学部
教育学部 准教授
赤沢 真世 先生の巻

先生のお気に入り
英語教育はじまりの
絵本



「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、佛教大学のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼是(あれこれ)を部員が自ら紹介、語ってくれます。

絵本が紡ぐ、
シンプルなことばのチカラ
世界に目を向けるまなざし

ゼミや授業の冒頭に「今日の絵本」を紹介することがあります。絵本に込められた本質を、私から学生へ、そして将来教員になったときはその生徒へと伝わっていくという思いがあります。

小学校での英語教育が本格的にスタートしましたが、アルファベットがひらがなのように書けない・覚えられない、教える時間が少ないなど、子どもや先生がつまずいている現場も多いようです。まずはA、B……とシンプルな形に意識を向け、英語に興味を持ってもらうための定番が、『ABC3D』と『Alphabet City』です。今一歩のお気に入りの前者は、アルファベット26文字がさまざまなバリエーションで立ち上がるポップアップデザインブック。ワークシoppで見せると子どもたちも大喜びします。特に好きなのはOとPの次、線が2本入ったトレーシングペーパーをめくるとQとRになるページで、意表をついた仕掛けに天才!と膝を打ちました(笑)。

英語をペラペラしゃべれるようになればいいけど、小学校の段階では、簡単な言葉を交わすだけでも人とつながることができると伝えたいんです。『Yo!』

Yes? (邦題「やあ、ともだち!」)は、人種も性格も異なる男の子の友情のはじまりを描いています。リズムカルな語感や邦訳とのニュアンスの比較が面白いのは、『どこいったん(原題「I WANT MY HAT BACK」)も同じ。長谷川義史さん訳の関西弁が秀逸で、原著は主人公のクマのひと言にドキッとする結末が。学生と「みんなならどう訳す?」と楽しくやりとりできます。

その長谷川さんの作品をひとつ挙げるなら、「ぼくがラーメンたべるとき」。表紙の絵とタイトルではどんな物語かわからず、内表紙の物悲しい色合いの意味が読み進めるうちにじわじわとやってくる。違ふ場所でも同じ時間を生きている世界の子ともたちの一瞬を切り取った静かで強い平和への願い。異文化理解や平和学習がさりげなく織り込まれ、自分の子の読み聞かせにも、教材としても、一冊です。



B-ism

2024
December



活動日：水曜日
活動場所：紫野キャンパス 教室

手話サークル「なまけもの」

みんなで学びながら
青春もエンジョイしています
前田 愛佳さん
……荒口 裕晴さん



創設から51年目を迎えた歴史あるサークルです。「なまけもの」の由来は正直わからないんです(笑)。でも、なまけている

人は一人もいません! 普段は、毎週水曜日に紫野キャンパスの教室に集まって、2時間ほど手話の勉強をしています。動画やテキストを使った学習会とゲームで技術向上に努めているのですが、どの活動もメンバー同士で考え、教え合うというスタイルです。ネットなどで情報を集め、自分たちで企画して学んでいます。また、大学からの要請で、耳が不自由な学生のために講義内容を書き写すノートテイカーの指導や、今年度は初めて入学式の手話通訳も任せてもらいました。

鷹陵祭では、毎年ユニークなステージを披露。定番の手話コースに加え、手話クイズ、演劇など、これらも全部皆考えて準備します。学外に飛び出すこともあって、複数の大学の手話サークルが一堂に会して交流イベントを開催しています。

現在のメンバーは1〜4年生まで33人。大学で初めて手話に触れた人がほとんどです。私たち2人のように、「なまけもの」の存在が佛教大学への進学理由の一つになったメンバーもいます。初心者でも上達できる理由は、学生同士で学んでいるからだだと思います。やらされている感じがなし、質問もしやすい。何より和気あいあいと楽しいから続けられる。自然と手話が身につっていくという感覚があります。

手話を始めたことで世界が広がりました。聴覚障害の方と会話ができるようになり、楽しく切磋琢磨する仲間もできました。学びと青春のどちらも謳歌できるサークル、「なまけもの」への参加をお待ちしています。

活動日：水曜日、木曜日
活動場所：紫野キャンパス 教室

教職サークル「MIYABI」

将来教壇に立つ夢に向けて
ユニークで役立つ活動が満載



文学部日本学科2年生
小川 冬寧さん
……藤本 ひなたさん

「MIYABI」は将来教壇に立つことを目指し、座学だけでは学べない技術や人間関係を築く力を養える教職サークルです。メンバー約120人の大所帯を、代表1人・副代表2人の先輩方がとりまとめ、私たち運営の2人がサポートする形で携わっています。

主たる活動目標は、1分間スピーチや模擬授業などを通して人前で話す機会を確保し、教員採用試験や社会に出た後も見据えて「人前で話すスキル」や授業力、プレゼン能力を向上させることにあります。毎週の活動は各自の自主性に委ねて参加自由です。また、「MIYABI」から派生して、各教科に特化した「子サークル」があり、こちらも自由に参加できます。

運営スタッフ5人で企画立案する際は、実際の授業や学級経営などに役立つ内容が第一です



が、運営サイドの一方通行にならないようみんなにアイスブレイク体験をしてもらうことも。O.G.O.Bを授業対決イベントに招き、現職教員ならではの視点でアドバイスをいただける貴重な機会があれば、スポーツ大会や恒例イベント「かくれんぼ例会」「ハロウィン例会」など遊びに振り切ったイベントもあり。活動の振り幅が大きいのも「MIYABI」推しポイント!

教職は途中で断念したけれど、純粋にサークル活動を楽しむために参加している人もいます。学年・学科問わず交友関係とともに視野や考え方が広がり、互いに刺激し合え、日々成長を実感できるのがいいところ。私たちにとって「MIYABI」

Hello!!

クラブ・サークル
見聞録

彼は

「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、佛教大学のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼是(あれこれ)を部員が自ら紹介、語ってくれます。

第15回ホームカミングデー

2



11月2日、佛教大学同窓生の方が集まる「ホームカミングデー」を開催しました。

恒例の各学部学科によるイベントのほか、今年は新たに「同窓ツアー」を実施。本学卒業生の佐々木晃さんが代表取締役社長を務める佐々木酒造の酒蔵見学や、京都国立博物館「法然と極楽浄土」の鑑賞、浄土宗開宗850年慶讃記念知恩院参拝ツアー等、本学ゆかりの「京都」を楽しんでいただきました。

キャンパス内外で、久々の再会に話も弾み、笑顔あふれる同窓生の皆さまにお会いできました。

第21回佛教大学学術賞ならびに佛教大学学術奨励賞授与

3

10月23日に開催の創立記念式典において、第21回佛教大学学術賞ならびに学術奨励賞の授与式を挙行し、伊藤真宏学長により2名が表彰されました。

学術賞

人文科学部門

李 冬木（文学部教授）
著書名：『越境—「魯迅」の誕生—
（浙江古籍出版社、令和5年7月）

学術奨励賞

文学研究科

苑 克柱（大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程3年生）
論文名：「株宏著作の述作年代」
『印度学仏教学研究』第72巻第1号（通巻第161号）（日本印度学仏教学会、令和5年12月）

B-ism

2024
December

第58回鷹陵祭（おうりょうさい）

1

11月2日～4日、第58回鷹陵祭が開催されました。

初日は大雨に見舞われるなどハプニングがありながらも、鷹陵祭実行委員会の学生が中心となって復旧にあたり、大変な盛り上がりでたくさんの笑顔が生まれました。

クイズ企画や音楽ライブ等の多種多様なイベントが催され、中庭ステージは常に盛況！飲食物模擬店では学内23の団体が出店し、学園祭を盛り上げようと学生に交じって大学イモ屋さんを出店する職員の姿もありました。



また、教室でもたくさんの企画が催され、中でもレクリエーション研究会による縁日企画にはたくさんの親子連れが集まりあたたかい空間が広がっていました。

プロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」の協力によるフリースロー企画も行われ、地域の方々や運動自慢の学生たちが多く参加し、盛況を博しました。

一つ一つの個性豊かな「彩」がその力を際限なく発揮してほしいという実行委員の想いの通り、学生、地域の方々、教職員やその家族、たくさんの方がそれぞれの時間を鷹歌に、唯一無二の学園祭となりました。次回はどんな催しになるのか、第59回鷹陵祭が今から楽しみです。





～みんなで進めよう"つながりの森づくり"～ 通算43回目となるモデルフォレスト運動を実施しました！

5



本学は、地域貢献活動・環境保全運動の一環として、三共精機株式会社、公益社団法人京都モデルフォレスト協会、みやわきBilley、南丹市、京都府と連携協定を締結し、モデルフォレスト運動に参画しています。

10月26日、美山町「つながりの森」にて通算43回目となるモデルフォレスト運動を実施することができ、学生14名、教職員6名をはじめ合計38名で活動に取り組みました。

今回は、「つながりの森」内の枝木の剪定を行いました。オリエンテーションののち、4班に分かれて作業を開始。力を合わせて邪魔になっている枝木を切り落とし、さらに鋭く切り分けました。

普段することのない作業に、学生たちは「木材に関する知識なども教えていただいた」と嬉しそうな様子でした。

また、皆で協力しながら昼食準備を行い、地元美山町の絶品のお米を炊き上げました。この日初めて会った参加者同士の交流もあり、終了時には学生から「次回も参加します！」「この声があがりました。次回の開催は、2025年3月22日を予定しています。」



B-ism

2024
December

積極的に被災地支援—活動報告

4

「令和6年能登半島地震」への 義援金募金活動

2024年1月24日から3月19日まで「令和6年能登半島地震」への義援金募金活動を行いました。

この活動の一環として、社会連携センター学生ボランティア室と、宗教教育センター学生サポート団体「カルヤナ・ミトラ」の学生たちが、3月13日、14日、19日に京都市内（四条河原町交差点）



救済金の募金を呼びかける学生たち

での街頭募金を行いました。また、卒業式当日には紫野キャンパス内で義援金を募りました。

また、佛教大学オープンラウングセンターでは、「令和6年能登半島地震チャリティー講座」を2月20日から22日の3日間連続で実施し、見逃し配信での受講申込みを2月20日まで受け付け、のべ452名の方にご賛同いただきました。

そして、5月8日、寄せられた義援金74万5316円を、社会連

携センター学生ボランティア室、宗教教育センター学生サポート団体「カルヤナ・ミトラ」の代表学生計4名が日本赤十字社京都府支部にお届けし、贈呈式が行われました。

ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

現地での活動も実施いたしました。

6月8日、有志学生9名が石川県珠洲市野々江町でボランティア活動を実施。被災者支援拠点で「パン配付」による物資提供活動と

子どもたちの工作教室を中心に行い、参加した学生たちは、津波による被害が大きかった地域の視察へも赴き、

現地の人々と交流したことで、さまざまな想いを口にしていました。

街頭募金	61,634円
義援金口座	154,285円
チャリティー講座	452,000円
学内設置募金箱	77,397円
合計	745,316円

「2024年台湾東部沖地震」への被災地支援活動

2024年4月3日に発生した「2024年台湾東部沖地震」を受け、大学として救済金口座を開

設。キャンパス内での募金箱の設置に加え、社会連携センター学生ボランティア室および宗教教育センター学生サポート団体「カルヤナ・ミトラ」の学生が協力し、四条河原町交差点での街頭募金活動を行い、救済金を募集しました。

本学は、台湾の慈済大学（花蓮市）、東海大学（台中市）と学術交流協定を締結しており、毎年留学生の受入れおよび送り出しが行われています。今回の街頭募金活動には、地震発生の約10日前まで現地に留学していた学生も参加しており、贈呈式にも出席しました。

学生による街頭募金	22,246円
義援金口座	117,000円
学内設置募金箱	32,111円
合計	171,357円



温かいご支援ありがとうございました

「佛教大学 Open Research Weeks 2024」開催 8



佛教大学の研究活動を紹介する「佛教大学 Open Research Weeks 2024」を11月1日～11月29日の間、紫野・二条の両キャンパスで開催しました。

Open Research Weeksでは、研究に関わる6つの部署・機関（学術支援課・法然仏教学研究センター・総合研究所・臨床心理学研究センター・宗教文化ミュージアム・社会連携センター）における研究者および各センター等の研究成果や活動成果等がポスター展示とWEBサイトにより紹介されました。

また、紫野キャンパスでは図書館の協力を得て、図書館デジタルコレクションより「都名所百景（抜粋）」と「洛中洛外図屏風（複製）」を展示しました。



B-ism

2024
December硬式野球部が関西地区代表として
明治神宮野球大会に臨みました 6

引き続き硬式野球部へのあたたかいご声援をよろしくお願いたします。

大会の詳細等については、硬式野球部のホームページをご参照ください。



公式ホームページはこちら
佛教大学硬式野球部
<http://baseballclub.bukkyo-u.ac.jp/>

硬式野球部は令和6年度京滋大学野球連盟秋季リーグ戦にて3季連続62回目のリーグ優勝を果たし、関西5リーグの優勝校による第22回大阪市長杯争奪関西地区野球選手権大会に京滋の代表として出場。初戦を落とも敗者復活戦にて3連勝、まさに「ミミフル佛大」といえる勝ち上がりで関西第2代表の座を掴み取りました。明治神宮野球大会では雨の降りしきるコンディションの中、ベンチ外のメンバーや応援団も一体となって最後まであきらめない粘りの野球を見せてくれました。

プロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」と連携協定を締結 7



B.LEAGUEに所属するプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」（運営：スポーツコミュニケーション KYOTO株式会社）と包括連携協定を締結し、紫野キャンパスにて調印式を実施しました。

本協定は、京都ハンナリーズと本学が学術、教育、研究、人材交流及び社会貢献等の幅広い分野で相互に協力し、双方の認知度向上、発展に資するために締結いたしました。

調印式には、京都ハンナリーズより松島鴻太代表取締役社長、本学伊藤真宏学長が出席

し、互いに双方の強みを活かして広い分野で協力していくこと、京都の発展に貢献してことが述べられました。本協定を機に、継続的に双方協力した取り組みを展開していきます。

また、京都ハンナリーズとは、ゴールドパートナー契約（2024-25シーズン）を締結しております。



陰陽道の神々 決定版



著／斎藤英喜(歴史学部 教授)
法蔵館
2024年10月
定価(税別)1,500円

なぜ少年は聖剣を手にし、死神は歌い踊るのか
ポップカルチャーと神話を読み解く17の方法



共編著／清川祥恵(文学部 講師)
文学通信
2024年9月
定価(税別)1,900円

BOOK Information 本

著者
出版社
出版日
価格

本学の教員による
刊行物をご紹介します。

失われた院政期絵巻の研究



著／苫名 悠(歴史学部 講師)
思文閣出版
2024年3月
定価(税別)7,500円

文学と魔術の饗宴 日本編



著／斎藤英喜(歴史学部 教授)、
分担執筆／清川祥恵(文学部 講師)
小鳥遊書房
2024年9月
定価(税別)2,200円

神道天皇・大嘗祭



著／斎藤英喜(歴史学部 教授)
人文書院
2024年7月
定価(税別)6,500円

仏教心理学入門



分担執筆／鈴木康広(教育学部 教授)
晃洋書房
2024年3月
定価(税別)2,700円

心理臨床における「あの世」のゆくえ



分担執筆／鈴木康広(教育学部 教授)
春秋社
2024年9月
定価(税別)3,500円

成句故事成語ではじめる中国史
― 古代から現代まで



著／山崎寛士(歴史学部 教授)
法律文化社
2024年5月
定価(税別)3,000円

高齢者福祉政策論



著／坂本 勉(社会福祉学部 教授)
ミネルヴァ書房
2024年2月
定価(税別)2,600円

日本の青少年の行動と意識
― 国際自己申告非行調査(I-SRD)の分析結果



分担執筆／作田誠一郎(社会学部 教授)
現代人文社
2024年3月
定価(税別)8,000円

戦後期渡米芸能人のメディア史
― ナンシー・梅木とその時代



著／大場吾郎(社会学部 教授)
人文書院
2024年4月
定価(税別)4,800円

教育学部 教育学科 心身障害学 奥畑 志帆(准教授)	歴史学部 歴史文化学科 地理情報科学、歴史 地理学 塚本 章宏(教授)	文学部 英米文学、英米思想 史 野谷 啓三(特別任用教員)	仏教学部 浄土教思想、円頓 戒、中国仏教 齊藤 隆信(特別任用教員)	教員・職員 新規採用者紹介 教員は学科と専門を、職員は所属を表記 ※特別任用教員は学科表記なし
保健医療技術学部 作業療法学科 作業療法 勝田 茜(講師)	社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉、精神保健 福祉 江本 純子(准教授)	社会学部 公共政策学科 民法 花元 彩(准教授)	幼児教育学科 臨床心理学 山崎 玲奈(准教授)	高橋 敏之(教授)
職員 管財部 施設課 今井 健太	附属こども園教諭 附属こども園 中畑 敬子(保育教諭)	学生支援センター 障害学生支援、特別 支援教育 楠 敬太(特別任用教員)	国際交流センター 文化交渉学 喬 昭(契約講師)	教職支援センター 理学、応用数学 近藤 真(教育実習担当講師)
生涯学習部 通信教務課 辻村 真奈	生涯学習部 オープンラーニン グセンター事務課 若山 雛湖	生涯学習部 通信総務課 柴田 佳典	進路支援部 資格課 岩崎 歩実	進路支援部 教職支援課 松山 勇起



2023年度 定年退職教員

仏教学部	教育学部	教職支援センター
松田 和信(仏教学部仏教学科)	松村 京子(教育学部教育学科)	山崎 英志(教育実習担当講師)
文学部	社会学部	専門職キャリアサポートセンター
橋高 真一郎(文学部英米学科)	久保 壽彦(社会学部公共政策学科)	佐藤 順子(福祉実習担当講師)
歴史学部		
渡邊 秀一(歴史学部歴史文化学科)		

